

大学生のパーソナリティ認知の再検討

Reexamination of university student's personality perception

弘前大学保健管理センター

田名場 美 雪

弘前大学教育学部附属教育実践総合センター

田名場 忍

大学生のパーソナリティ認知について、これまでの複数回にわたる調査から、その認知構造における変化を基本3次元との関連により検討した。さらに自由記述による性格特性語に変化があるかどうかを検討した。その結果、認知構造は「個人的親しみやすさ」「社会的望ましさ」「積極性あるいは快活さ」「おだやかさ」という次元で構成されることが示唆された。また、性格特性語の提出傾向においては「個人的親しみやすさ」「積極性あるいは快活さ」と意味的に関連の深いものが多く提出されていた。以上から、大学生のパーソナリティ認知構造は2000年代に入ってから変化している可能性があること、「個人的親しみやすさ」に比重が置かれていることが明らかになった。

-
- 1 はじめに
 - 2 共通特性語によるパーソナリティ認知構造の検討
 - 3 自由記述による性格特性語の検討
 - 4 考察
-

キーワード：パーソナリティ認知、暗黙のパーソナリティ観、基本3次元

1 はじめに

私たちは、自分自身や交流のある周囲の人たち、初対面の人たちの性格について、「あの人は〇〇的だ」であるとか、「この人は△△の傾向がありそうだ」など、判断や評価をしている。このように、人は、知らず知らずのうちに自他を判断・評価する際の基準のようなもの、ものさしのようなものをもっており、それに基づいて自分や周囲の人たちについて判断・評価している。

パーソナリティ認知研究の領域では、自らの過去経験などを土台としたパーソナリティについての素朴な信念体系をもっており、これをもとに様々な情報処理を行い、自分自身や他者のパーソナリティの全体像を形成すると言われている。つまり、現実生活場面において、私たちが自他のパーソナリティを判断・評価する場合、目の前にいる対象人物のパーソナリティそのものを正確に反映させているというよりも、むしろ、個々人が自分なりの認知カテゴリー（すなわち、暗黙のパーソナリティ観）をあらかじめ保持し、これに基づいて自分自身や他者のパーソナリティを理解していることになる（Cronbach, 1955¹）。

このような考え方に基づいた多数の研究をふまえ、林（1978）²はパーソナリティ認知構造を構成する基本的な次元として、次に示すような「個人的親しみやすさ」「社会的望ましさ」「力本性」の3つを設定できるとしている。

1. 個人的親しみやすさ（好感・親和などの社会・対人評価）

あたたかさ、温厚性、やさしさ、親近性、愛想の良さ、人なつっこさ、明朗性など

2. 社会的望ましさ（尊敬・信頼などの知的・課題関連の評価）

誠実性、道徳性、良心性、理性性、信頼性、堅実性、細心さ、etc など

3. 力本性（意志の強さ+活動性）

外向性、社交性、積極性、自信の強さ、意欲性、大胆さ、粘着性、etc など

この基本3次元は、20項目からなる尺度（以下、共通特性語と表記）の評定から得られ、従来の研究（林・大橋, 1983³；大橋, 1984⁴；田名場, 1993⁵；廣岡, 1997⁶）など、1980年代から1990年代まで安定的に抽出されてきている（表1および表2、参照）。なお、これらの研究対象となっているのは、そのほとんどが大学生である点は留意すべきであろう。

基本3次元は、多くの人々に共通する認知構造である。その一方で、私たちは個人特有の認知構造といったものを同時に備えている場合もある。そのような視点から、筆者らは個別のパーソナリティ認知構造抽出に関する研究（田名場, 2005⁷）も行ってきた。

しかし、学生相談および講義を通じて出会う大学生たちとコミュニケーションするうちに、そして大学生の個別のパーソナリティ認知構造を検討していくうちに、1980年代からの基本3次元という考え方が2000年を過ぎた現在でも通用するかどうか、つまり20項目の共通特性語における意味のまとまりが依然として変化のないものなのかどうか、疑問を感じる機会が増えつつある。同時に、現代の大学生が日常使用している性格特性語自体にも変化があるのではないかという素朴な疑問も感じている。

本研究では、共通特性語を使用したこれまでの研究結果の再検討、および大学生の自由記述による性格特性語の内容の再検討、このふたつの作業を通して、大学生のパーソナリティ認知の変化について考察する。

2 共通特性語によるパーソナリティ認知構造の検討

方法：

2002年、2003年、2006年の3回、20項目からなる共通特性語による尺度上で、「私」について7段階

表1 従来のパーソナリティ認知構造①（大橋, 1984）

	第1因子 個人的 親しみやすさ	第2因子 社会的 望ましさ	第3因子 力本性
心のせまい — 心の広い	.64	.12	.25
親しみにくい — 親しみやすい	.72	-.31	.19
親切な — 不親切な	-.75	-.21	-.11
人のよい — 人のわるい	-.74	-.09	.01
近づきがたい — 人なつっこい	.67	-.38	.21
かわいらしい — にくらしい	-.72	-.08	.07
感じのよい — 感じのわるい	-.79	-.15	-.14
なまいきな — なまいきでない	.63	.28	-.31
短気な — 気長な	.42	.28	-.29
責任感のある — 責任感のない	-.33	-.61	-.33
慎重な — 軽率な	-.05	-.78	.04
軽薄な — 重厚な	-.03	.73	.00
うきうきした — 沈んだ	-.39	.52	-.41
無分別な — 分別のある	.30	.68	.20
恥ずかしがりの — 恥しらずの	-.22	-.58	.47
社交的な — 非社交的な	-.41	.40	-.54
意欲的な — 無気力な	-.15	-.18	-.66
自信のある — 自信のない	.20	.04	-.74
消極的な — 積極的な	.06	-.18	.76
卑屈な — 堂々とした	.14	.15	.51
因子寄与率	24.30	16.60	15.10

表2 従来のパーソナリティ認知構造②（田名場, 1993）

	第1因子 個人的 親しみやすさ	第2因子 力本性	第3因子 社会的 望ましさ
心のせまい — 心の広い	.59	.16	-.45
親しみにくい — 親しみやすい	.79	.13	-.12
親切な — 不親切な	.61	-.11	.40
人のよい — 人のわるい	-.69	.02	.45
近づきがたい — 人なつっこい	.82	.16	-.11
かわいらしい — にくらしい	-.66	-.10	.19
感じのよい — 感じのわるい	-.73	-.13	.38
無分別な — 分別のある	-.01	.68	.29
恥ずかしがりの — 恥しらずの	-.35	-.61	-.08
社交的な — 非社交的な	-.19	-.62	.26
意欲的な — 無気力な	.12	-.67	.02
自信のある — 自信のない	-.18	.75	.12
消極的な — 積極的な	-.08	.62	-.07
軽薄な — 重厚な	-.41	-.47	-.25
なまいきな — なまいきでない	.38	.17	-.56
短気な — 気長な	-.14	-.37	.59
責任感のある — 責任感のない	-.07	.20	.65
慎重な — 軽率な	.28	-.06	-.67
卑屈な — 堂々とした	.32	-.28	-.49
うきうきした — 沈んだ	.18	.06	-.46
因子寄与率	21.00	16.20	14.50

評定を求めた。

すべて記名式の質問紙調査であり、配布・回収共に郵送法である。対象者を以下に示す。

① 調査 1

2002年度新入生1378名、分析対象者は855名（男性331名、女性524名）。

② 調査 2

2003年度新入生1374名、分析対象者は1349名（男性713名、女性636名）。

③ 調査 3

2006年度新入生1405名、分析対象者は1383名（男性756名、女性627名）。

それぞれの評定データに、因子分析（主因子法、非反復解法、バリマックス回転、固有値の打ち切り基準 $E \geq 1.0$ ）を施し、因子を抽出した。

結果：

① 調査 1

2002年度調査の因子分析結果においては3因子が抽出された（表3参照）。第1因子は、「社交的な人は積極的で親しみやすい」といった内容であるので、「快活な親しみやすさ」と命名した。第2因子は「責任のある人は慎重で分別がある」という内容なので、「社会的望ましさ」と命名した。第3因子は「気長な人はなまいきでない」という内容なので、「おだやかさ」と命名した。

従来の基本3次元と照合すると、「社会的望ましさ」についてはそのままであるが、「力本性」を構成する要素とも言える「快活性」が「個人的親しみやすさ」に加味されている。そして同じく「力本性」を構成する要素である「粘着性」の対概念である「おだやかさ」が残ったと解釈できる。

②調査2

2003年度調査の因子分析結果では4因子が抽出された（表4参照）。第1因子は「人なつっこい人は親しみやすい」という内容であるので、「個人的親しみやすさ」と命名した。第2因子は「積極的な人は自信がある」という内容であるので「積極性」と命名した。第3因子は「慎重な人は責任感がある」という内容なので「社会的望ましさ」と命名した。

表3 2002年度調査の因子分析結果

	第1因子 快活な 親しみやすさ	第2因子 社会的 望ましさ	第3因子 おだやかさ
社交的 — 非社交的な	.72	-.13	-.08
意欲的な — 無気力な	.65	-.40	.05
自信のある — 自信のない	.61	-.10	-.03
恥ずかしがりの — 恥しらずの	-.56	-.37	-.03
消極的な — 積極的な	-.82	.10	-.08
近づきがたい — 人なつっこい	-.66	-.07	.31
うきうきした — 沈んだ	.68	.08	-.15
卑屈な — 堂々とした	-.61	.14	.14
親しみにくい — 親しみやすい	-.68	.00	.28
感じのよい — 感じのわるい	.57	-.27	-.48
責任感のある — 責任感のない	.31	-.70	.03
慎重な — 軽率な	-.15	-.70	-.09
軽薄な — 重厚な	.07	.62	.22
無分別な — 分別のある	-.15	.62	.14
心のせまい — 心の広い	-.33	.12	.57
短気な — 気長な	.06	-.03	.70
人のよい — 人のわるい	.33	-.37	-.57
なまいきな — なまいきでない	.21	.23	.60
かわいらしい — にくらしい	.30	-.06	-.52
親切的な — 不親切的な	.34	-.41	-.43
因子寄与率	24.87	12.82	12.48

表4 2003年度調査の因子分析結果

	第1因子 個人的 親しみやすさ	第2因子 積極性	第3因子 社会的 望ましさ	第4因子 おだやかさ
近づきがたい — 人なつっこい	.75	.20	.00	.09
親しみにくい — 親しみやすい	.74	.35	.02	.15
感じのよい — 感じのわるい	-.64	.20	-.34	-.19
社交的 — 非社交的な	-.55	-.43	-.13	.00
うきうきした — 沈んだ	-.51	-.41	-.01	-.05
かわいらしい — にくらしい	-.44	-.09	-.27	-.20
消極的な — 積極的な	.40	.72	.08	-.03
自信のある — 自信のない	-.17	-.59	-.18	.00
意欲的な — 無気力な	-.28	-.49	-.36	.02
卑屈な — 堂々とした	.27	.48	.25	.14
恥ずかしがりの — 恥しらずの	.15	.47	-.31	.05
慎重な — 軽率な	.48	.09	-.64	-.03
責任感のある — 責任感のない	-.14	-.27	-.61	-.03
無分別な — 分別のある	.17	.14	.49	.19
親切的な — 不親切的な	-.33	-.17	-.45	-.22
軽薄な — 重厚な	.41	.04	.43	.23
人のよい — 人のわるい	-.37	-.10	-.41	-.37
短気な — 気長な	.31	-.02	.07	.67
心のせまい — 心の広い	.27	.30	.28	.56
なまいきな — なまいきでない	.18	-.26	.26	.41
因子寄与率	15.17	12.06	11.17	6.71

第4因子は「気長な人は心が広い」という内容なので「おだやか」と命名した。

基本3次元と照合すると、「個人的親しみやすさ」「社会的望ましさ」は従来どおりである。「力本性」については、調査2と同様に「積極性」と「おだやかさ」とに分離している。

③調査3

2006年度調査の因子分析結果では、4因子が抽出された（表5参照）。2003年度調査の因子分析結果とほぼ同様の内容となっている。第1因子を「個人的親しみやすさ」、第2因子を「積極性」、第3因子を「社会的望ましさ」、第4因子を「おだやかさ」因子と命名した。

基本3次元と照合すると、「個人的親しみやすさ」「社会的望ましさ」は従来どおりである。「力本性」については、調査2と同様に「積極性」

と「おだやかさ」とに分離している。認知構造全体としては、調査2と同様となっている。

考察：

これら3つの調査結果から、大学生のパーソナリティ認知構造は基本3次元との関連から次のように考えることができる。第1に、従来の「社会的望ましさ」「個人的親しみやすさ」は安定して抽出される可能性が高いことである。

第2には、従来の「力本性」は、そのままの意味のまとまりとしては抽出されにくく、その内容から見ると、「活動性あるいは積極性」という要素と、粘着性や大胆さとは対となる概念であろう「おだやかさ」とに分離していることである。

第3には、その分離した「活動性あるいは積極性」が従来の「個人的親しみやすさ」と融合し、「快活な親しみやすさ」となる場合もあるということである。

以上をまとめると、「個人的親しみやすさ」と「社会的望ましさ」に関しては基本次元として得られたが、「力本性」は抽出されにくく、新たに「積極性あるいは快活さ」と「おだやかさ」が出現していると言える（表6参照）。

3 自由記述による性格特性語の検討

方法：

次の5つの調査において、性格特性語（自他のパーソナリティや人柄、性格を考えたり口にしたたりす

表5 2006年度調査の因子分析結果

	第1因子 個人的 親しみやすさ	第2因子 積極性	第3因子 社会的 望ましさ	第4因子 おだやかさ
近づきたい — 人なつこい	-.77	.25	.08	.09
親しみにくい — 親しみやすい	-.74	.34	.00	.11
感じのよい — 感じのわるい	.66	-.21	.23	-.29
社交的 — 非社交的な	.55	-.51	.06	.06
かわいらしい — にくらしい	.51	-.12	.16	-.24
うきうきした — 沈んだ	.50	-.46	-.01	-.00
人のよい — 人のわるい	.43	-.09	.33	-.39
消極的な — 積極的な	-.38	.70	-.14	-.07
自信のある — 自信のない	.17	-.61	.15	.03
卑屈な — 堂々とした	-.17	.61	-.16	.19
恥ずかしがりの — 恥しらずの	-.09	.55	.28	.00
意欲的な — 無気力な	.31	-.52	.43	.08
慎重な — 軽率な	-.02	.14	.63	-.09
責任感のある — 責任感のない	.17	-.31	.58	-.01
無分別な — 分別のある	-.12	.14	-.54	.19
軽薄な — 重厚な	.02	.05	-.48	.22
短気な — 気長な	-.05	-.01	-.05	.62
心のせまい — 心の広い	-.31	.26	-.22	.55
なまいきな — なまいきでない	-.12	-.17	-.20	.48
親切的な — 不親切的な	.20	-.01	.19	-.17
因子寄与率	30.09	12.65	8.25	5.52

表6 パーソナリティ認知構造の変化

1980・1990年代	2000年代
個人的親しみやすさ (好悪・親和などの社会・対人評価)	→ 快活な親しみやすさ 親しみやすさ+活動性
社会的望ましさ (尊敬・信頼などの知的・課題関連の評価)	→ 社会的望ましさ
力本性 (意志の強さ+活動性)	→ おだやかさ → 積極性あるいは快活さ

る際に用いることば)の収集を行った。データの収集方法については各調査で若干の差異がある。

①調査 1

2001年度新入生1113名(男性579名,女性579名)を対象に,記名式の質問紙調査を行い,5語の性格特性語提出を求めた。配布・回収共に郵送法である。4690語の性格特性語を得た。

②調査 2

2006年度一般教養の講義受講者92名(男性92名,女性45名)を対象に,講義の一環として記名式の質問紙調査を行った。5語の性格特性語の提出を求め,416語の性格特性語を得た。

③調査 3

2007年度一般教養の講義受講者88名(男性43名,女性45名)を対象に,講義の一環として記名式の質問紙調査を行った。3語の性格特性語の提出を求め,262語の性格特性語を得た。

④調査 4

2009年度一般教養の講義受講者52名(男性18名,女性34名)を対象に,講義の一環として記名式の質問紙調査を行った。10語の性格特性語の提出を求め,516語の性格特性語を得た。

⑤調査 5

2009年度心理学関連の講義受講者85名を対象に,無記名式の質問紙調査を行った(無記名であるため,性別に関しては不明である)。5語の性格特性語の提出,さらにその特性語の意味説明を求め,262語の性格特性語を得た。

分類基準:

性格特性語の分類にあたっては,次に示すような青木(1974)⁸による分類基準を参考にした。この分類基準は古くはあるが,たいへん貴重で示唆に富んだものであるもので,以下に紹介する。

A 頻度と程度を表現する用語

頻度:いつも,かなり,たまに,絶対ない,等々(「ありえない」はここに分類される)

程度:最高の,完全に,だいたい,普通,最低の,最悪の,等々

B 印象語

親しみやすさ:明るい,あたたかみのある,意地悪そうな,かわいい,うさんくさい,近寄りにくい,魅力的,等々

外見印象:あかぬけた,あつくるしい,ごつい,汚い,さえない,若々しい,等々

内面評価:あれた,おっとりした,こっけい,ずぶとい,とらえどころのない,等々

成熟度:青臭い,味のある,色気のある,幼い,しぶい,病弱な,等々

C 評価語(賞賛や非難のために使用される)

程度評価:ありきたり,一流の,ずばぬけた,まあまあ,満点,等々

知的評価:あさはか,アホ,賢い,話にならない,等々

危険と粗悪:悪,いかがわしい,しぶとい,邪悪,不潔,等々

弱さ・だらしなさ:大人げない,くだらない,半人前,厄介者,等々

身勝手・調子の良さ:厚かましい,おべっか使い,ずるい,ふてぶてしい,等々

腹立たしさ・その他:頭にくる,いやな,にくらしい,ばかげた,目ざわり,等々

D 適切な表現用語

表7 適切な表現用語一覧 (青木, 1974^aより作成)

カテゴリー	内 容
礼儀正しさ	素朴で気どりが無い。誠実に物事にあたり控えめで実際以上に見せたりはしない。たしなみがあり、出すことがなく、比較的寡黙。
おだやかさ	バランスがとれていて安定感があり、のんびりとした動作をするようにもとれる。物静かにゆったりとふるまい、立腹することが少なく、事が起きても落ち着いた行動をする。
社交性	何があってもめいったり重苦しくならない。苦しくても朗らかで笑顔。つきあいがよく誰とでも気軽に応対し、人と一緒にいるのが好き。話好きで人をよく笑わせる。
親切	親しみやすく温かい感じで人に接する。人間味があり、他人の立場に立って細かい心配りをする。献身的で同情心があり、困った人には積極的に力を貸す。
活動性	生き生きと情熱的に動き回る。きかん気もあり躊躇しない。おそれを知らず、自由奔放。なんでもやってみたがるが時に気負いの強さが出すぎる。
手堅さ	行動に綿密な計画性がある。地道に実行する。几帳面で整理が行き届き、用意周到であれこれと心配りする。警戒心も強く、うかつに事をはこばない慎重さがある。
頭のよさ	経験があり視野が広く、考えに柔軟性をもつ。カンがはたらき機敏に物事を処理する。発想も独自で有益な関連づけをする。指導性や分別もある。
身勝手	いい気になって優越感をもち、知ったかぶりののはつたりが多い。都合が悪いとごまかし、饒舌。自己主張が強く、自説を曲げず、うまくゆかないとひねくれ、しつこい。
激し易さ	苛立ちやすくやる事が乱暴。かんしゃくが爆発してじっとこらえることができない。自己中心的で選り好み強く、いやなことだとすぐ反発的になる。見栄を張り気取る。
内気	行動が受け身でふんざり悪い。自分のことを外に表さない。引っ込み思案、気が弱く過敏すぎて安定感がなく、不必要に照れたり恥ずかしがったりする。孤独で気が弱く、人とあまりなじめない。
冷たさ	不人情で弱い者いじめをする。人のいうことを素直にとらず、何をするにもケチをつけ、独善的。悪意をもつ手、わざといやがらせをする。話し方は一方的で容赦なく、相手を痛める。
根気のなさ	忍耐力に乏しく、やっても途中で投げげる。気が変わりやすく三日坊主で最後までやり通さない、ちょっとした障害ですぐくじけ、自分のものとして取り組まない。働きかけが少なく形式的。
軽率	気が変わりやすく行動自体に落ち着きがなくよく失敗する。早のみこみで不注意な行動が多い。無鉄砲で限度をわきまえず思慮に欠ける。物事の処理に計画性はなくその場限り。
頭の悪さ	考え方が固く新しいことになかなか慣れない。発想に新奇なものがなく常識的で、問題解決が形式的。視野が狭く、この先のことは考えず、誤りが多い。

結果：

調査1から調査4において提出された性格特性語を先の分類基準にしたがって分類した。そのほとんどは適切な表現用語(表7参照)に含まれるものであった。提出された頻度の高い性格特性語上位20語を、表8から表11で示す。もちろん分類不能なものもあったが(表中の※は分類不能を意味する)。

表8 性格特性語 (2001年)

性格特性語	分 類	頻度
優しい	親切	462
明るい	社交性	432
おもしろい	社交性	280
真面目	礼儀正しさ	161
性格が良い	(印象語：親しみやすさ)	128
短気	激しやすさ	121
暗い	内気	106
楽しい	社交性	97
自己中心的	身勝手	77
優柔不断	根気のなさ	74
思いやりがある	親切	59
わがまま	身勝手	55
しっかりしている	手堅さ	54
積極的	活動性	50
おとなしい	おだやかさ	48
きつい	冷たさ	47
マイペース	おだやかさ	41
頼りになる	礼儀正しさ	39
素直	礼儀正しさ	38
誠実	礼儀正しさ	38

表9 性格特性語 (2006年)

性格特性語	分 類	頻度
おもしろい	社交性	41
優しい	親切	38
明るい	社交性	19
いい人	※	21
かわいい	外見印象	11
話しやすい	社交性	11
こわい	冷たさ	9
頭がいい	頭のよさ	8
楽しい	社交性	7
バカ	頭の悪さ	7
冷たい	冷たさ	6
わがまま	身勝手	6
しっかりしている	手堅さ	5
まじめ	礼儀正しさ	5
ネガティブ	根気のなさ	5
ポジティブ	活動性	4
アホ	頭の悪さ	4
暗い	内気	4
親切	裏切り	4
大人っぽい	(評価語：成熟度)	4

表8から表11を概観すると、「やさしい」「明るい」「おもしろい」この3つの性格特性語はそれぞれの調査において出現頻度が高いことがわかる。

さらにこの結果を要約するために、性格特性語そのものではなく、出現した分類ごとの頻度を見ている（表12参照）。それによると、分類上では「社交性」と「親切」が共通して出現しているようである。

このことから、提出された性格特性語の上位は、先に述べたパーソナリティ認知次元の中の、「積極性あるいは快活さ」「個人的親しみやすさ」に関連するものであると推測できる。

表10 性格特性語（2007年）

性格特性語	分 類	頻度
明るい	社交性	11
面倒くさがり	根気のなさ	10
マイペース	※	8
さびしがりや	内気	7
神経質	内気	7
優しい	親切	7
頑固	激し易さ	6
負けず嫌い	激し易さ	6
真面目	礼儀正しさ	6
気分屋	軽率	5
優柔不断	根気のなさ	5
小心者	内気	4
わがまま	身勝手	4
がんばりや	手堅さ	3
社交的	社交性	3
だらしない	根気のなさ	3
適当	根気のなさ	3
ネガティブ	内気	3
脳天気	身勝手	3
恥ずかしがり	内気	3

表11 性格特性語（2009年A）

性格特性語	分 類	頻度
優しい	親切	41
面白い	社交性	25
明るい	社交性	23
かわいい	外見印象	23
かっこいい	外見印象	15
うざい	（評価語：腹立たしさ）	14
いい人	※	13
きれい	外見印象	12
まじめ	礼儀正しさ	10
元気	活動性	9
こわい	冷たさ	9
楽しい	社交性	9
おとなしい	おだやかさ	8
しっかりしている	手堅さ	8
頭がいい	頭のよさ	6
つめたい	冷たさ	6
細い	外見印象	6
おしゃれ	外見印象	5
キモイ	（評価語：腹立たしさ）	5
頼りになる	礼儀正しさ	5

表12 性格特性語分類の出現頻度

2001年		2006年		2007年		2009年A	
分 類	頻度	分 類	頻度	分 類	頻度	分 類	頻度
社交性	809	社交性	78	内気	24	外見印象	61
親切	521	親切	42	根気のなさ	21	社交性	57
礼儀正しさ	276	※（いい人）	21	社交性	14	親切	41
身勝手	132	冷たさ	15	激し易さ	12	（印象語：腹立たしさ）	19
（印象語：親しみやすさ）	128	頭の悪さ	11	※（マイペース）	8	礼儀正しさ	15

個別の性格特性語についての意味説明の検討：

調査5では、性格特性語の提出と同時に、その意味内容についての自由記述も求めている。表13に示すような性格特性語が得られた。調査1から調査4と同様に、「親切」と「社交性」に分類されるものが多く見られる。そして、パーソナリティ認知次元の中の、「積極性あるいは快活さ」「社会的望ましさ」に関連するものであると推測できる。

次に、上位5つの性格特性語「やさしい」「おもしろい」「かわいい」「明るい」「いい人だよ」について、その意味内容を検討する。

①「やさしい」の意味説明

「やさしい」をあげた53名中41名から、意味の説明を得た。

最も多かったのが、「周囲に気配りができる、人の気持ちを考えた発言、行動ができる」「他人の気持ちを尊重できる」「周り・他人を優先する」に代表さ

表13 性格特性語（2009年B）

性格特性語	分 類	頻度
やさしい	親切	53
おもしろい	社交性	38
かわいい	外見印象	21
明るい	社交性	18
いい人だよ	※	15
かっこいい	外見印象	10
しっかりしている	手堅さ	9
まじめ	礼儀正しさ	9
おとなしい	おだやかさ	8
マイペース	※	8
うざい	（評価語：腹立たしさ）	7
怖い	冷たさ	5
元気	活動性	4
個性的	（評価語：成熟度）	4
社交的	社交性	4
すてき	（印象語：親しみやすさ）	4
だめ	（評価語：弱さ・だらしないさ）	4
ノリいい	社交性	4
人みしり	内気	4
頭いい	頭のよさ	3

れるような配慮・気配りにかかわる説明であり、13例あった。次に多かったのは、「親切で相手のことを思うことのできる」に代表される親切に関わる説明であり、5例あげられた。思いやりに関するものが3例、ここの広さに関するものが2例であった。その他の説明としては、「誰にでも平等に接する」「怒らない、厳しいことを優しく言って悟らせる」などがあげられた。

これらから、「やさしい」とは、他者への配慮ができる、親切で思いやりがあること、という意味であることがわかる。

②「おもしろい」の意味説明

「おもしろい」をあげた38名中31名から、意味の説明を得た。

最も多かったのは「周囲を笑わせてくれる」「一緒にいて笑いがたえない」と、笑わせてくれるという意味で、12例であった。次に多かったのは「場を盛り上げてくれる」「他人との雰囲気を和ませてくれる」といったようなムードメーカー的な意味が7例、ユーモアに関するものが3例であった。また、意外性に言及しているものがあった。

このことから「おもしろい」とは他者を笑わせたり、楽しい雰囲気を作れることを意味すると思われる。

③「かわいい」の意味説明

「かわいい」をあげた21名中15名から、意味の説明を得た。

多かったのは、「外見が整っている」のような外見・容貌にかかわるものが5例、そして「見た目や雰囲気や、しぐさも含めてかわいらしい、明るい、小さい」といったような外見とふるまいの印象が、同じく5例であった。その他には、「行動が動物的であったり、動作の一つ一つが心を和ませる」「ニコニコしている、弟や妹みたいな印象」といった説明があげられた。

これらから、「かわいい」とはその人の外見や言動が明るく年下の者のような印象を受ける、という意味であると考えることができる。

④「明るい」の意味説明

「明るい」をあげた18名中17名から、意味の説明を得た。

「いつも笑顔」「いつも笑っている」といった笑顔に関するものが6例、「気さくな人」「話しやすく安心できる」といった、話しやすさに関するものが4例、元気さが3例、その他、雰囲気のよさがあげられた。

これらから、「明るい」とは、笑顔が多く話しやすい元気な感じの意味であると考えられる。

⑤「いい人だよ」の意味説明

「いい人だよ」をあげた15名中11名から、意味の説明を得た。説明には共通する明確な方向性は見られないようである。気づかいができる、自分が要求したものを提供してくれる、やさしくて気がきく、総合的に友達になる、話しやすく感じがよい、おだやかな等々であった。漠然としており、いわゆる「一般的評価」にあたるものである、善し悪しの判断に近いものと思われる。

この「いい人だよ」という性格特性語は、調査2および調査4においても出現している。さらに調査1においては「性格が良い」という性格特性語が出現している。これもどちらかというと善し悪しの判断に近いものと思われる。このことから、大学生にとっては「いい人」ということばは、人のパーソナリティに関するさまざまな善悪の基準を内包しているものと推測できる。

4 考 察

大学生のパーソナリティ認知について、共通特性語によるパーソナリティ認知構造、そして自由記述

による性格特性語から再検討を試みた。

共通特性語によるパーソナリティ認知構造は、「個人的親しみやすさ」「社会的望ましさ」「力本性」の基本3次元として1980年代から1990年代まで安定的に抽出されてきていた。しかし、2000年代になってからのパーソナリティ構造は、上記の基本3次元との照らし合わせると次のように考えることができる。

「社会的望ましさ」「個人的親しみやすさ」は安定して抽出される可能性が高い。特に、「社会的望ましさ」の次元は安定している。一方で「力本性」は、そのままの意味のまとまりとしては抽出されにくく、「活動性あるいは積極性」と「おだやかさ」と2つの次元に分離している。そして、その分離した「活動性あるいは積極性」は「個人的親しみやすさ」と融合し、「快活な親しみやすさ」となる場合もある。

このことから、大学生のパーソナリティ認知構造は、「個人的親しみやすさ」「社会的望ましさ」「活動性あるいは積極性」「おだやかさ」の基本4次元となっている可能性があると言える。別の可能性として、「快活な親しみやすさ」「社会的望ましさ」「おだやかさ」の基本3次元となっていることをあげることができよう。

自由記述による性格特性語を見てみると、「やさしい」「明るい」「おもしろい」の3つの性格特性語は提出頻度が高い。先に述べたパーソナリティ認知次元の中の、「積極性あるいは快活さ」「個人的親しみやすさ」に関連するものであると推測できる。

以上、共通特性語によるパーソナリティ認知構造、そして自由記述による性格特性語の再検討から、大学生のパーソナリティ認知においては「個人的親しみやすさ」という認知次元が大学生に共有されやすい傾向にあり、使用する性格特性語の種類にも反映しているということが言える。

このことから、筆者らが考えている以上に、現代の大学生は、自分や周囲の他者が親しみやすいパーソナリティであるかどうかという基準を重視している可能性があると言える。そして快活であり積極的であるかどうかという基準とは別に、おだやかであるかどうか、つまり情緒的に安定しているかどうかという基準も存在するようである。このような現代の大学生のパーソナリティ認知の特徴を踏まえた上で、自分自身のパーソナリティについての相談や、自分にかかわる評価についての相談、対人関係についての相談にあたる必要があると考える。

¹ Cronbach, L.J. 1955 Processes affecting scores on "understanding others" and "assumed similarity".

Psychological Bulletin, 52, 177-193.

² 林文俊 1978 対人認知構造の基本次元についての一考察 名古屋大学教育学部紀要（教育心理学科），25，233-247.

³ 林文俊・大橋正夫・廣岡秀一 1983 暗黙裡の性格観に関する研究（Ⅰ），実験社会心理学研究，19，9-25.

⁴ 大橋正夫 1984 「対人関係の社会心理学」 福村出版

⁵ 田名場美雪 1993 暗黙のパーソナリティ論に関する研究 —「暗黙のパーソナリティ論」の臨床への応用可能性をめぐる—，岩手大学大学院人文社会科学研究科研究紀要，1，165-183

⁶ 廣岡秀一・山中一英 1997 対人認知次元の構造的変化に関する縦断的研究 実験社会心理学研究，37，37-49.

⁷ 田名場美雪 2005 暗黙の人格観検査（IU & IPU式）の改訂と実用化の試み（4），弘前大学保健管理概要，26，21-27.

⁸ 青木孝悦 1974 「個性表現辞典：人柄をとらえる技術と言葉」 ダイヤモンド社